

「白岡市人口ビジョン（案）」に対する意見と回答

白岡市総合政策部企画政策課

意見の内容	意見に対する市の考え方
○46,000人の人口にする納得のいく論理がない。 同様に合計特殊出生率を2.07に高める論理の根拠がない。 ①住みやすさのための店舗不足と②土地利用についての思想の積み上げがない。わかりやすい2つだけ言いました。	→人口ビジョンは、過去の人口動向を基に人口推計を行い、活力ある地域社会を維持できる目指すべき将来人口の設定を行うものです。 国立社会保障・人口問題研究所の推計では、現状の人口動向が続くと、本市では、平成72年に人口が36,824人まで減少すると推計されていることから、出生率や転出入者数をどのようにすれば人口減少を緩和することができるのかシミュレーションを行いました。 その結果、平成52年までに、長期的に人口の増減が均衡した状態となる水準（人口置換水準*）まで市の合計特殊出生率を向上させるとともに、現状の転出入者数（人口の社会増）を維持することができれば、平成72年における人口は45,810人となる推計結果が得られました。 そのため、人口ビジョンでは、平成72年における将来目標人口を46,000人に設定し、市民の妊娠・出産から子育てまでの一貫した支援や子育てと仕事の両立支援などに関する施策を積極的に行うことなどにより、合計特殊出生率を2.07まで高めることとしています。また、利便性の高い生活環境・都市基盤の整備や雇用を創出するための新たな土地利用の検討を行うことで転出の抑止と転入の増加を図り、社会増数を多くすることを目指しています。 人口ビジョン等の策定に当たって実施した市民アンケート調査の結果では、飲食や娯楽施設（店舗）の誘致や市内における雇用の場の確

	保等が必要であると指摘されています。 このようなことから、市では、今後、白岡市人口ビジョン及び白岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づき、積極的な産業振興と新たな土地利用の検討を進めることとしています。 * 人口置換水準：人口の増減が長期的に均衡した状態となる合計特殊出生率の水準のこと。国立社会保障人権問題研究所によると、日本における人口置換水準は、おおむね 2.07 であるとされている。
--	--

「白岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）」に対する意見と回答

白岡市総合政策部企画政策課

意見の内容	意見に対する市の考え方
①産業経済対策（農業＝国の政策をなぞって失敗、国がこけて以来崩壊・商業＝全く取り組まないののでノウハウゼロ・工業＝なし）をやっていない市の伝統から記述は信用できない。 ②のりあい交通は市民の足を保証するシステムではない。 ③市民協働に納得できる指標がない。	→総合戦略では、「コラボレーション 手をつなぎ協働と連携の地域づくり」をメインテーマとしており、今後は、市全体で産官学の連携を積極的に図っていくこととしています。 特に、めまぐるしく状況が変化する産業分野では、様々な機関との連携を図り、それらの知見やノウハウを活かし、よりよい成果が得られるようまちづくりを進めます。 →市では、駅やバス停から離れている地域にお住まいの方、また、高齢の方や小さいお子さんをお持ちの方など、交通弱者といわれる市民の方の利便性を向上させるため、のりあい交通を運行しています。 今後は、鉄道、バス、タクシー等の公共交通との連携や情報交換を積極的に行い、市内の交通利便性の向上に努めます。 →市民協働は、地域が抱える課題の解決やより良いまちづくりなど、市民の方と行政が共通の目標に向かって活動することです。 そのため、「市民の方と市が一緒になって進めている事業数」、「参画と協働のまちづくりを推進するために市の公募に応じた市民の人数」、「市民の方が企画・実施する協働事業に対して市から補助金を交付した事業数」の3つを市民協働の進捗を図る指標として設定しました。